



東京・池袋、新宿地区を中心にパチスロ専門店「グリーンピース」を展開する(株)ニュートン(荻野勝朗社長)は、遊技産業の枠に収まりきらない多彩な顔を持った企業グループです。ホテル、レストラン、カラオケから結婚式・イベントプロデュースなど、若者の都市生活を彩るさまざまな事業に取り組み、日本発の新しいサービス産業を目指しています。

(株)ニュートン

ユニークな社会貢献活動で各方面の注目を集めています。08年7月から始めた「がんばれ!」

高241億円、社員300人、標準社員・スタッフ計1300人を抱えます。そのニュートン、最近ではユニークな社会貢献活動で各方面の注目を集めています。

(上から)子供村で開かれた高校生バンド「プラストビート」の打ち合わせ会、「しんぐるまざ〜ずふぉーらむ」、子供村の外観



子供村」の活動です。将来ある子供たちのために企業として何かできることをやろうという事で、小規模な活動からのスタートだったといいますが、今ではマスコミなどでも広く紹介され、地域はもとより、連携するNPOの活動などを通じて、全国的に広がっています。

活動の特色は、ニュートンを中心とした企業グループが資金を出し合い、東京都豊島区雑司が谷に地上4階建ての「がんばれ!子供村」ビルを建設、ここにコミュニティルームやプレイルーム、研修室などを作り、NPO団体と連携し各種の支援事業の拠点とすることです。

具体的には、施設をNPOやボランティア団体に無料で貸し出し、子供たちへの支援活動をバックアップしていくのが基本です。これまで、コミュニティルームなどの貸し出し件数は延べ4000件に上ります。ビルの運営費用は、主としてグループ企業が拠出していますが、取引先

企業や個人、グループ社員などの寄付によってもまかなわれています。

寄付と言えば、この「子供村」ビル内の掲示板などを利用して東日本大震災支援の寄付を募りましたが、グループ企業からの支援も含めて580万円強の寄付を集め、被災地に贈りました。

インドネシアで学校建設

「子供村」では、障害を持つ子供や、いじめ等で悩んでいる子供、家庭内の様々な問題で苦しんでいる子供(主として小学生から高校生までの子供)とその保護者を対象に、今後も支援を続けていきたいとしています。さらに、グループ企業の施設を利用した合宿、キャンプ、カラオケ店を利用したカラオケ大会などの企画も検討しているようです。すでに、グループ企業の伊豆リゾートホテルへの夏休み無料招待も延べ100組300名に上ります。

「子供村」の活動で最近目を引く

同社の名前の由来となったニュートンは、りんごが木から落ちるのをヒントに「万有引力の法則」を発見しました。誰もが見過ごしてしまいがちなことに新たな価値を見出し、社会のニーズにあった事業を展開するというのが同社のポリシーだそうですが、手近なところから一歩一歩進める堅実な社会貢献活動にもそれが反映されているようです。

のが、インドネシアの農村地帯での小学校建設の活動です。インドネシア・東ヌサ・トゥンガラ州オライア村に、住民とともに立派な校舎と行き届いた教育環境を作り上げるのが目標です。すでに現地住民との話し合いも済み、校舎建築に踏み出しています。インドネシアでは、同様の貧しい農村地帯は無数にありますが、まずはここから始めていこうというのが、「子供村」の方針です。

村人も参加したインドネシアでの小学校建設式典

